

話題の「鬼滅の刀」について、世代ごとの映画に対する関心を調べることにした。

0 大人と子供各100人について、「鬼滅の刀」に対する関心の有無を調べた。

	関心ある	関心ない	わからない
大人	35	63	2
子供	83	17	0

結果 関心あると答えたひとは、大人で35人、子供で83人であった。
 考察 子供の方が、日常的に「鬼滅の刀」を見ていることが影響したと考えられる。
 結論・展望 世代ごとに関心が異なることが示された。今後は別の映画でも同じ傾向が見られるか確かめたい。

客観性を高めることが展望となっており、研究としてはさらに深める必要がある。

1 人気の映画「鬼滅の刀」を通じて、世代ごとの映画に対する関心を詳しく調べることにした。

t検定 大人と子供各100人について、「鬼滅の刀」に対する関心を4段階評価（とてもある、わりとある、あまりない、ほとんどない）で行い、その平均値に有意な差が得られるかを確かめることにした。

t検定の仕組み 夢のあるAさん：大人と子供には数値の違いがある！
 絶望させるBさん：そんなの、ないない、一緒一緒。

											データ	平均	分散
大人	2	3	2	4	1	2	2	1	3	1	10	2.82	0.98888889
子供	4	3	4	4	3	4	4	4	4	3	10	3.7	0.23333333

→t値 X.XX...

t値の出し方、覚えてますか？

→Aさんの考え（対立仮説）を支持するため、Bさんの考え（帰無仮説）を否定する（「Bさんの夢のない話は5%も起きやしない、だから棄却！」）ことがt検定の目的

$$t = \frac{|\bar{x}_A - \bar{x}_B|}{\sqrt{\frac{s_A^2}{n_A} + \frac{s_B^2}{n_B}}}$$

平均x
分散s
個数n
自由度(na-1)+(nb-1)

結果 t検定を行ったところ、大人の平均値と子供の平均値に違いがあることがわかった。このことから、大人と子供で、映画に対する関心が異なるものと考えられる。
 考察 特に子供では関心の「とてもある」と明確に答える割合が大きかった。大人の方が、中間的な回答をしやすかったことが原因である。
 結論・展望 世代ごとに関心が異なることが示された。今後は、関心があると答える要因について調べたい。

客観性を高めることは果たせており、原因を追究し

2 人気の「鬼滅の刀」の鑑賞の有無が、大人の関心にも影響を及ぼすのかを調べることにした

分散分析 大人で「鬼滅の刀」の映画・テレビ、映画、テレビ、どちらも見ていないについて、「鬼滅の刀」に対する関心を4段階評価（とてもある、わりとある、あまりない、ほとんどない）で行い、その平均値に有意な差が得られるかを確かめることにした。

分散分析の 対立仮説：大人で映画・テレビを観た観ないの間には違いがあるはず！
 仕組み 帰無仮説：いやいや、見ても見なくても、一緒だって。どれも一緒。

→帰無仮説を棄却するのが分散分析の目的！

										データ数
大人	両方	4	3	3	4	3	3	4	3	10
	映画	3	4	4	3	3	3	4	4	10
	テレビ	3	4	4	3	4	3	3	2	10
	観てない	2	1	2	2	3	2	2	4	10

必要データ 水準合計 2乗 データの2乗和
 水準間変動 水準内変動 全変動 F₀

結果 分散分析を行ったところ、4つの条件のいずれかに有意差があることがわかった。
 考察 映画や番組を見たことがある経験が「関心がある」と答えやすくしたことが考えられる。
 結論・展望 映画や番組は、関心の有無に影響を及ぼすことが示された。今後は、大人と子供に及ぼす映画・テレビの影響を調べたい。

4つの条件がある。この場合は、t検定ではなく分散分析を用いて、違いがあるのかを調べる。方法は裏面参照。

3 人気の「鬼滅の刀」について、映画を見ることで世代に及ぼす影響を調べることにした。

多重比較 大人で映画「観た・観ない」、子供で映画「観た・観ない」で関心にもたらす影響を調べることにした。

多重比較の 3つ以上のそれぞれの組合せで検定を行い、帰無仮説を棄却する組合せを見つける。
 仕組み

		①	②	③	④
大人・観た	①	×	5.7	1.5	0.9
大人・観てない	②		×	5.4	5.6
子供・観た	③			×	0.8
子供・観てない	④				×

これは、Sheffeの方法、Tukeyの方法などが代表的である。Excelがあると行いやすい。方法の詳細は今後示したいと思います。興味があるひとは調べてみましょう。

5%水準 5.22

→①と②、②と③、②と④で有意な差が得られた。

結果 このことから、大人でも観ることで、子供と同等に面白いと感じることがわかった。
 考察 大人は、固定観念のように、観る前から面白くないと決めていていると考えられる。一方、子供は、観てもみなくても「面白い」という情報を素直に受け取っていると考えられる。
 結論 大人と子供には映画に対する捉え方に違いがあることがいえる。それは、世代によって異なるのではなく、世代によって見ることで影響をもたらしたり、周りの情報に影響を受けることが要因となることの本研究で示された。

問は「人気番組が世代におよぼすかを明らかにしたい」であるが、研究を積み重ねることで0に比べると仮説が更新され、結論も厚くなり、研究として深化したことがわかります。